

平成27年度 教育事業
子どもたちのハートをつかめ！

子どものリソースを活かす教育相談の方法やソリューション・フォーカスト・ブリーフセラピー、選択理論、児童・生徒理解の手立てを学ぶことで、子どもたちが抱えるストレスや悩みへの対応の仕方などについて、より具体的・実践的に学べる場となりました。また、参加者相互の交流を深めることで、支援体制のネットワークも広がりました。

1 事業実施までの経緯

本事業は日本学校教育相談学会愛媛県支部と連携し、今回19回目を迎えた。実施当初は、学校現場において不登校が大きくクローズアップされ始めた時期であり、当時の交流の家職員と日本学校教育相談学会愛媛県支部会員とのネットワークを活用し、学校現場で悩んでいる教職員とともに教育相談をどう捉えればよいか、子どもたちとどう関わっていけばよいかを考える場としてこの事業をスタートさせた。平成13年度からは不登校のみならず、社会的問題にもなっている引きこもりがちな青少年にまで対象を広げている。今回も日本学校教育相談学会からの紹介をもとに講師を選定し、よりよい研修会になるよう、学会担当者や講師と連絡を取り合い、打合せを重ねた。例年、アンケートで要望されている「より学校現場で実践できる内容を」という意見を重視し、現場で生かせるリソースを活かす教育相談の講義・演習やソリューション・フォーカスト・ブリーフセラピー、選択理論、児童生徒理解の手立てを学ぶことをテーマに本事業を企画・実施した。

2 ねらい

教育相談にかかわる教職員・施設職員等が、いじめや不登校などの問題を抱える児童・生徒、そして、引きこもりがちな青少年およびその保護者の理解と対応の仕方、学校現場で活かせる教育相談の手法などについて、教育学的・心理学的見地から研修を行う。

3 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
日本学校教育相談学会愛媛県支部

4 後 援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会

5 期 日 平成28年1月9日（土）～平成28年1月10日（日）

6 場 所 国立大洲青少年交流の家

7 参加人数 教職員、不登校対応施設職員、社会人等 49名

8 講 師 金山元春氏（高知大学教育研究部准教授 心理学博士）
相模健人氏（愛媛大学教育学部准教授 学校臨床学博士）
井上千代氏（西予市立明浜中学校 養護教諭）
影本登志子氏（日本学校教育相談学会認定学校カウンセラー・スーパーバイザー）

9 日 程

		13:30 14:10 14:30	17:30 18:30	20:00 21:00 22:30
9日(土)	受付	開講式	第1部 金山 元春 氏 『リソースを活かす教育相談・前半の部』	夕食
			第2部 金山 元春 氏 『リソースを活かす教育相談・後半の部』	情報交換会
				入浴等
				就寝
		8:30 9:00	11:30 12:00	
10日(日)	受付	講義・演習 第3部 『ワークショップ』	相模 健人 氏「ソリューション・フォーカスト・ブリーフセラピーの教育相談への活用 -保護者編-」 井上 千代 氏「選択理論をベースに、自己肯定感を把握し、育てる」 影本登志子氏「『児童・生徒理解』の手立てと演習」	閉講式
				解散

10 活動内容

【1日目】

「開講式」

最初に主催者である国立大洲青少年交流の家の佐藤悟所長と日本学校教育相談学会愛媛県支部の藤田正司理事長が挨拶を述べ、19回目を迎える教育相談に関する研修会「子どもたちのハートをつかめ！」が開催された。

「講義・演習」 第1部 『リソースを活かす教育相談』

高知大学教育研究部 准教授 心理学博士 金山 元春 氏

第1部は高知大学教育学部准教授、心理学博士でもある金山元春氏により「リソースを活かす教育相談」と題して講義・演習が行われた。

はじめに、人間関係の基本について述べられた。人間関係がうまくいかない時は、ほとんどの人は相手が変わってくれたらよいと思っているが、自分の接し方を変えて、コミュニケーションを工夫すれば、お互いの人間関係はよい方向に向かっていくことを伝えられた。

続いて、子どもたちが問題行動をとった場合の対応について、金山氏の考えが述べられた。大人たちは、問題行動に直面した時にその原因を探してしまう傾向があるが、その子どものリソース（周りにあるもの）の良さを生かし、解決志向、未来志向で対応していくことが重要であると語られた。

休憩後には、教育相談の際に使われる解決志向の「対決アイメッセージ」「OKメッセージ（コンプリメント）」の技法について説明が行われた。「対決アイメッセージ」とは、子どもをストレートに指導するのではなく、その時の状況や気持ちを考えさせ、子どもに押し付けずに、選択権を与えて判断させること、「OKメッセージ」とは、相手をほめて勇気づけ認めることであることが伝えられた。実際に、この技法を教師が現場で使うことにより、反抗的な男子中学生が教員の指導を受け入れるようになった事例が紹介された。また、事例資料をもとにしたワークショップが行われ、参加者は個人で考えたり、グループで話し合ったりすることで、解決志向の手法への理解を深めることができた。



「講義・演習」 第2部 『リソースを活かす教育相談』

高知大学教育研究部 准教授 心理学博士 金山 元春 氏

第2部では、リソースを活かす教育相談の仕方についてのワークショップが実施された。

まず、参加者は4人グループになり、それぞれのグループにリソースカード16枚が配られた。リソースカードには、「あなたが頑張っていることは何ですか」「あなたが大事にしていることは何ですか」「あなたが得意なことは何ですか」といった質問が書かれていた。グループの中の一人がそのカードを1枚ひき、その質問について話を言い、それに対し周りの人が、スケーリング・クエスチョン（未来志向の質問）をしていった。この質疑応答をグループ内で相互に繰り返し行っていくことにより、未来志向の質問の仕方について理解が進み、質問の仕方が上達する様子が見られてきた。振り返りの場面では、「リソースカードを使うことにより、楽しくなっていっていき、グループのみんなが仲良くなっていった」「長所を認めてくれるとうれしい」「現場で、子どもたちに行っていきたい」等の感想が聞かれた。

最後に金山先生から、未来志向はプラス志向・ポジティブ志向とは違うこと、リソースカードを使うことによって自分のことが整理され発見されていくこと、現場の実践では意見が言い合える集団作りが必要であることが説かれた。

【2日目】

「講義・演習」 第3部 『ワークショップ』

愛媛大学教育学部准教授・学校臨床学博士 相模 健人 氏

西予市立明浜中学校養護教諭 井上 千代 氏

日本学校教育相談学会認定学校カウンセラー・スーパーバイザー 影本 登志子 氏



第3部は愛媛大学教育学部准教授であり臨床心理士の相模健人氏による講義・演習「ソリューション・フォーカスト・ブリーフセラピーの教育相談への活用ー保護者編ー」、西予市立明浜中学校養護教諭の井上千代氏による講義・演習「選択理論をベースに、自己肯定感を把握し、育てる」、日本学校教育相談学会認定学校カウンセラー・スーパーバイザーの影本登志子氏による講義・演習「『児童・生徒理解』の手立てと演習」が、3つの会場に分かれ行われた。

相模健人氏の講義・演習では、ソリューション・フォーカスト・ブリーフセラピー（SFBT）の教育相談への活用について紹介があり、実際に保護者との面接の場面を想定したロールプレイが実施された。このロールプレイ後に、参加者によって保護者対応の注意点やポイント等について、具体的なふりかえりが行われた。

井上千代氏の講義・演習では、「他人と過去は変えられないが、自分の現在と未来は変えられる」という理念のもと選択理論についてワークシートや資料を活用し、演習を行うことで分かりやすく学ぶことができた。また、参加者は二人組でのロールプレイを通して、選択理論の「人間関係を築く7つの習慣」「人間関係を壊す7つの習慣」を実際に体験して、よりよい人間関係を築くにはどうすればよいかを理解することができた。

影本登志子氏の講義・演習では、参加者は前半に心や体をリラックスさせる方法や「児

童・生徒理解」のための手立てについて学んだ。後半は、学校現場での事例を通してグループで意見交換を行い、活動のふりかえりを通して、児童・生徒理解の仕方を深めることができた。

11 参加者の声

参加者のアンケートの結果

* 満足：81.6% * やや満足：18.4% * やや不満：0.0% * 不満：0.0%

- 一部だけの部分参加もOKとしていただき、有り難かったです。元気モリモリわいてきました。心が温かくなりました。「かわいげのない子＝かわいがられた経験不足の子」という話から、同僚の何人かの先生（否定的、攻撃的、協力を嫌がる教師）へのかかわりのヒントも得ました。演習を通してのスキル練習もよかったです。金山先生の講義は、とても楽しく笑わせていただきながら、納得・納得のすばらしい時間でした。
- 初めての参加でしたが、大変新鮮でした。参加者の大変熱心な姿勢に関心させられました。これからみなさんを見習っていきたいと思いました。勇気とエネルギーと誠意をいっぱい頂きました。感謝でいっぱいです。ありがとうございました。また、機会があればよいと思います。
- 以前一度だけ参加させていただき、その時はアサーションを学びました。今回もQ-U、インデント・プロセスを学びました。特にイレシデントは、勉強になりました。現場にもって帰りたいと思います。
- 日々「状・気・選」を心がけ、自分の心にもブレーキをかけながら、相手の気持ちも考え、リソース作りに頑張っていきます。ほめる、勇気づけ、認めるを実践していきたいです。
- 毎年とてもためになる話が聞けて勉強になる。来年度も自分の心を磨くために来たいです。

12 成果と課題

今年度も、昨年度同様2日間開催とし、1日目は著名な講師を招いての講義・演習とし、翌日には日本学校教育相談学会愛媛県支部の会員講師によるワークショップを行った。

毎年アンケートで要望されている「より学校現場で実践できる内容を」という視点を重視して講師を選定し、座学だけではなく、演習の時間もしっかりと確保したことで、より具体的で実践的な研修ができた。情報交換会やワークショップでは、参加者相互の交流の場を設け、多くの方の考え方を聞いたことで自分自身の抱える課題の解決につなげることができたことや、今後のネットワークを広げることができたことなど多くの収穫を得られた参加者もあり、宿泊型の2日開催の成果が現れていた。

今年度の広報では、参加者増加を図るため、愛媛県内の全教職員にチラシを配布した。しかし、2日間開催にも関わらず、50名程度の参加にとどまった。さらに、昨年度同様の課題として、参加者の固定化や若年層の参加割合が低いことが挙げられる。次年度は研修会の日程や内容等のさらなる充実を図り、より多くの参加者に学びの場が提供できるような企画としていきたい。また、今年度参加していただいた方々とのつながりを大切にし、その参加者から周りの方へと参加者の輪が広がっていけるように工夫していく必要がある。